

～アサクラザンショウ～



名称：朝倉山椒

学名：*Zanthoxylum piperitum* DC. f. *inerme* Makino (ミカン科)

基原：成熟した果皮で、果皮から分離した種子をできるだけ除き、乾燥させたもの。

産地：日本(奈良、和歌山)、中国

性状：雌雄異株。枝にとげ対生、葉は互生、奇数羽状複葉。小葉は5～9枚、卵形～楕円形。鋭頭、鈍鋸齒縁。春、複集散花序を頂生、黄緑色の小花をつける。さく果は小球形で暗黄熟。果皮の外面は暗黄赤色～暗赤褐色で、油室による多数のくぼんだ小点がある。内面は淡黄白色である。黒色種子を1つ内蔵。

特異な芳香があり、味は辛く舌を麻痺する。

成分：モノテルペノイド：citronellal、limonene、 β -phellandrene、geraniol、citronellol
不飽和脂肪酸アミド： α -sanshool、 γ -sanshool、hydroxy- α -sanshool、hydroxy- β -sanshool

その他：フラボノイド配糖体、精油(2～4%)など

選品：種子や果柄の少なくかおりの良いもの。

適応：漢方処方用薬：冷えによる腹痛・膨満感を治療する薬方に配合される。

製剤原料：芳香性健胃薬、苦味チンキなどの原料。

漢方処方例：大建中湯(だいけんちゅうとう)、解急蜀椒湯(かいきゅうしょくしょうとう)

⇒構成生薬のうち、山椒、人参、乾姜、膠飴の組合せで、冷え、術後の腹痛に、特に大建中湯はイレウスに用いる。

烏梅丸(うばいがん)

⇒構成生薬のうち、山椒、烏梅の組合せで、蛔虫症による腹痛に用いる。

基原植物との関係：アサクラザンショウはサンショウ *Zanthoxylum piperitum* De Candolle の変種。アサクラザンショウには棘がない。

民間療法：家庭で駆虫薬としたこともあった。

参考文献：http://www.tokyo-shoyaku.jp/f_wakan/wakan2.php?id=97

<http://www.e-yakusou.com/sou/sou230.htm>